



愛媛県神道青年会再発足20周年奉告祭 平成3年4月11日 於 神社庁

平成3年11月1日

発行

〒798

宇和島市和霊町1451

和霊神社内

愛媛県神道青年会

広報委員会

TEL(0895)22-0197

# 愛媛県神道青年会発足二十周年

## 記念特別号

### 「二十周年を迎えて」

愛媛県神道青年会会长 柳原幸

拝啓、向寒のみぎり、皆様方に益々御

清祥の御事とお慶び申し上げます。さて愛媛県神道青年会は戦後の荒廃の中、はやくに発足を致しましたが、当時の厳しい状況を反映して、発足しては、たち消え、発足しては、たち消るといつた状態を繰り返して昭和四十六年故和田会長のもと再発足してより今年で二十周年の記念すべき年を迎えることと相なりました。

その間諸先輩方のたゆまざる御努力により、活動内容も年々活発になり、それに伴って県内の宮司様方にも積極的に理解、ご協力を頂ける様になつた訳でござります。

歴諸先輩方の御努力に対しましてここに改めて衷心より厚く御礼申し上げます。

顧みますと、この二十年の間、初詣及び格言スターの配布、県内神職意識調査の実施、会報「若竹」の発行、神職用傘の販売、サインでの合同慰靈祭の奉仕、玉串料訴訟の支援、「手水作法」及び「拝札作法」の看板の配布、初詣テレビスポット、観月神楽の夕べの実施、大嘗祭の啓蒙活動等、対外的な事業だけを挙げてみましても、神社界の活性化の為に評価すべき実績を挙げてまいりま

した。こうした努力を積み重ねて来た二十年という年に当たりまして、まず去る四月十一日には神社庁神殿におきまして二十周年の奉告祭を執り行い、これまでの神明の大御恩とお導きに感謝申し上げ、今後更なる御加護をお願い申し上げました。

そして記念事業として「手水作法の看板」を新たに作成し、各宮司様方への心ばかりの感謝の印としてお送り致した訳でございます。更に、八月二十四、二十五には記念大会を盛大裡に納める事が出来ました。

今回の記念大会は二十年という節目の年に当たり、今後我々は如何にすべきか、様変わりする環境の中で我々の奉じる神社神道が一般大衆の精神的中核として機能するために、どのように指導、教化していくべきなのか、といった観点から「神道その教化実践について」というテーマで研修会を行いました。

特に今回は神社神道に比較的近い教派

神道の黒住教、出雲大社教そして神社本庁の落合涉外部長の講演、葛城神社所長を交えてのパネルディスカッション等の内容にて行い、価値観の多様化した今日において我々を取り巻く環境を見渡して

みますと、地方においても都市化により人々の氏子意識が段々薄れてきております。また、核家族化により従来「親から子へ、子から孫へ」と伝えられてきた家庭での神祭りの基盤が崩れつつあります。そして新宗教と呼ばれる多くの教団へ入信する若者の増大等、非常に厳しい状況を迎えています。そこでこの研修会では、神社神道と同じ御祭神を信奉しながら布教活動に重点を置く教派

神道の現状と教化活動について学びながら、今後の方策を探って行きたいと思つております。我々青年神職は勉強しならなければなりませんが、それが多岐にわたります。神社祭式はもとより、古事記日本書紀、祝詞、有識故実、神社建築、社頭講話、教化活動、雅楽、書道、時局問題、神道論、社会人として的一般教養等、思い付くだけでも非常に広範囲にわたっております。神職を通じて神を拝むのである」という事を我々は常に心掛けなければならないと思っております。

祝祭日には  
国旗をかかげましょう



## え ひ め

## ご 挨拶

## 神道青年全国協議会

会長 吉川通泰

## 道を登る

愛媛県神社庁 府長葛城光彦

山登りの感想

愛媛県神道青年協議会に於かれましては、この度、貴会が再発足されて二十周年を迎へられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴会に於かれましては、昭和四十六年四月に再発足され、戦後の混乱期に荒廃した国土の再建と神社神道興隆等を目的に活動された貴会諸先輩方の信念に立脚して、爾来、様々な潮流を乗り越え情熱的な活動を続けてこられました。

貴会の近年に於ける諸活動を顧みましても、長曾我部先輩を中心と致しまして、清家先輩、そして現会長であります柳原宰君等、中央の役員と致しまして、県内は当然のこと、ブロック、そして全国に及ぶまで御活躍賜りました。

本会が今日に至るまで活動を継続してゐる背景には、貴会のやうに神道青年として積極的な活動を展開してゐる各単位会の御支援が全国的に結集してゐるからこそ理解しております。本会に御貢献戴きました諸先輩方の御尽力と貴会の本会への深い御理解に対しまして改めまして厚く御礼申し上げます。

さて、御高承の通り、神道青年全国協議会創立当初、その活動の主張となりましたのは、「第五十九回式年遷宮」の奉賛活動でありました。本来であれば、第五十九回式年遷宮は、昭和二十四年に御斎行の予定であります。この延引となりました御遷宮に際し、昭和二十四年に結成

した本会が、神社本庁より早く神社界の先頭にたつて奉賛活動を開始した次第であります。

奇しくも、本年一月に開催されました臨時総会に於きまして、小生が本会の会長に指名され、その重職を担ふことと相成りました。平成五年、秋に斎行されまつ式年遷宮を間に控へまして、私ども神青協会員は、今一度創立当初の活動を見つめ直す必要がありませう。私たち現会員の、親又は祖父にあたります諸先輩方が、本務神社の復興とともに神宮式年遷宮の御斎行のため、邁進してきたことを私たちには、今、改めて思ひ直なければなりません。

また、本年八月には、社会的関心事となつてきます「環境問題」をテーマと致しまして、夏期セミナーを開催致すべく、現在、その準備を進めております。私たちの祈りは、悠久の歴史の中で聖なる空間ともいへる「鎮守の社」を舞台に神々と感應しあひ、その結晶が、今日まで神社信仰として継承されてきたと、私は常々考へて來ります。

御遷宮を筆頭に、今後私達の眼には、従来とは性格を異にする様々な問題が生じると。神青協とは、約三千名の会員が一丸となり、神社界の将来を切り開くための、相互研鑽の場であります。

今後、益々貴会が発展され、その意思を、今まで以上に神青協に提言して戴きたく、この段、重ねて、お願ひ申し上げ

老境に入ると多くの人は自から歩んできた道を振り返りしきりに自分なりの評価をするようになり、そして体験から生涯の意義を見出そうとつとめ、やがて逝く世、その仕たくをする。自分の一生が成功つづきとよろこんだり、日々の失敗に悔やんだりしながら人生の終仕上げを考えるものである。かの家康は人の一生は重き荷を負つて遠き道を行くがごとしいそぐべからず。と訓えておる。私しは山に登るが如じと頂上のある事を識るべきかとおもう。坂道あり平坦な道もあり曲りくねり谷もあり、道は引きかえすが如きもあるが、登つておることには間違いないのである。かけがえのない人生の道も同じとおもう。

かつて若い頃昭和二五年より十年石鎧山成就社十日間の神前課長奉仕をした。

山成就社十日間の神前課長奉仕をした。山登りは三体の御神輿に供奉して馬に乗り登山口の川口まで行き、それより十日間滞在の準備をした。リュックサックを背負い高度千四百米まで登る。今の如き山登りは登った人でないとわからない。

ロープウェーのない時代夏山は千米位ではふきだす汗で衣類はびしょびしょとなつた。それでも富士山に登つたことか

ら考ればさしたる山ではないがやはり見直し聞直しといふ神道の精神は永遠に神道を信奉する人の生涯の心ばかりである。

◆

り業の基本になるものである。



## えひめ

六代会長  
池内公和  
加茂神社宮司五代会長  
矢野哲夫  
一宮神社宮司四代会長  
清家貞宏  
八幡神社宮司三代会長  
長曾我部延昭  
伊豫豆比古命神社宮司二代会長  
十亀興美  
石鎚神社権宮司

柳原 どうも、本日は歴代会長、諸先輩方お集まりいただき、まことにありがとうございました。ご承知のように、本年で神道青年会は発足いたしまして二十周年という記念の年を迎える事になりました。

えー考えてみますと、戦後荒廢期にはじめて、はやくに青年会が発足したそうでございますけども、その後たち消えまた発足し、またち消えとそういう状態で昭和四十六年に準備委員会ということで、神道青年会が改めて発足いたしましてから、厳密に云いますと再び発足になるらしいですけども、ちょうど二十年前たったわけでして、えーこれを記念いたしまして二十年の座談会をこのたび会報にのせるという事で、歴代の会長の方々にお集まりいただいたわけでござります。

えー久しぶりにみなさんお集まりになりまして、本当にうれしい限りでございます。どうか、きたんのないお話を聞いていただきまして、そしてまた、昔の懐かしい思い出等にふけていただけたらと思ひます。そしたらまず最初に（自己紹介は省略しました）。

十亀 失礼します。二代といいますと第

三代になるんですね。一期一年ということで神道青年会の会長、役員が決まっていきましたが和田、一番の初代会長が二期この会長を務められまして、その後私が一期会長の職をさしていただいたわけですが、えー愛媛県神道青年会、実は昭和四十六年の十一月と思つてゐるんですけども、その時にいわゆる再発足の準備委員会が開かれまして、えーまあ、当時東予、中予、南予この三区におきまして、これという人にお集まり願つてその方々によつて準備委員会ができました。その時の様子は私はまだ中に入つておりませんでしたんで、詳しい事はちょっとわかりません。このあたりは長曾我部さんの方が詳しいと思うんですが、当時の和田会長がなんとか青年会を発足しなければという意気込みでそういう運動と一方では長曾我部さんが中心になってまたその運動が行われ、それが合体になって本格的になつてきました。それが昭和四十六年十二月のはじめと記憶しております。

これが再発足のはじまりということですね。それからいろんな準備を行いまして、昭和四十七年の八月二十七日に結成式が行われたということです。この間に確か高知県で四国四県のブロック研修がありまして、その時愛媛県は正式に県のブロック研修を四十七年に発足してすぐ翌年の研修をひきうけようというふうな話になつて四十八年のそのブロック

## 歴代会長座談会（平成三年五月九日 於・松山ワシントンホテル）

司会 現会長 柳原 宰（嚴島神社御室）  
発足していませんでしたが、参加をしてこれから進めていくこうという力になつた事はまちがいのない事です。それで特に初代会長の和田将信さん、私と同期でございまして、国学院大学と一緒に卒業したということでございますが、非常に彼は、東京の神道青年会に入会いたしておられましたので、その影響力を非常に強く受けましてなんとか神社界の交流は青年神職でないと絶対だめだという信念がありました。そうした強い影響力を持つて愛媛県に帰つてきて、彼が中心となりまして、この会の再発足に臨んだという事です。

おかげで、当時はそういう場がありましたので、この結成式の案内の名簿を見ますと約百名近く青年神職の該当者がおります。で、その中で三十名の方が集まつて、やろうと集まりました時にその時はたいへん氣概を持ってみなさん集まりまして、何とかせにやならんという気持ちは一つというか、そういう感じであつた事を憶えております。

さつそく、そういう氣運の中で四国四県のブロック研修を四十七年に発足してすぐ翌年の研修をひきうけようというふうな話になつて四十八年のそのブロック

## えひめ

研修を実施した。その時にこの研修をやったのでみんなが常に集まつて、月一回は必ず集合いたしまして、まあ一本当に夜の十二時ぐらいまで議論を戦わし、それから酒も飲んで、わざわざ帰つたらたいがい二時。毎月そのような事でそれがみんな苦にならないし、本当に一致団結で、心をひとつにしてそれができたというふうに記憶しております。

そのブロック研修によってですね、非常に力をつけたという事が印象にあります。それから、その時のやはり中心の初詣のボスターがありますね、当最初代の和田会長がこれを発起して初詣ボスターを作りました。と同時にあの格言ボスターもあわせて作りまして、これを活動の柱にしていこうとなつたわけですね。

長曾我部　えー、何せ二十年も前の事で

ですからはっきり記憶している部分としてない部分がありまして、年代的な事も錯綜しているかもわかりませんが、一番最初に発足につきましてね、さきほど十亀さんからお話をありましたけれども、たまたまですけど東予の方で和田さんが発足しようという氣運と、中予の方でやろうかってたまたま一緒になつたんですね。

それでその時代的な事も二十年という時間も多少ずれたりしてある所もあるかもわかりませんけど、そういう事でそれからあのーそうですね。和田さんは山の一番奥ですけどね、たまたまあの当別子山村の総務課長ですかね、なんかしてましてね、それでこちらへ、県庁へ出て来る機会がしそつちゅうあつたんです。そ

ういう事もあって、えーしょつちゅう出て来れやすかつたんですね。宿泊も県の施設に泊まつたりしてました。

それから酒も飲んで、わざわざ帰つたらいいがい二時。毎月そのような事でそれがみんな苦にならないし、本当に一致団結で、心をひとつにしてそれができたといふうに記憶しております。

そのブロック研修によってですね、非常に力をつけたという事が印象にあります。それから、その時のやはり中心の初詣のボスターがありますね、当最初代の和田会長がこれを発起して初詣ボスターを作りました。と同時にあの格言ボスターもあわせて作りまして、これを活動の柱にしていこうとなつたわけですね。

そういう時つていうのは、さつきの話にもありましたかね。そんな時間帯でやつてから、矢野くんの車運転して帰つて、運転手さんで……(笑い) 帰つたら朝の四時やつたとかね。そんな時間帯でやってましてね。あの、正式にここにござりますように、四十七年の八月二十日七日とちゃんと案内状の名簿などもありまして、

とにかく、和田さんに一生懸命やっていただいたというのが一番最初だと、それから会員の集め方についてもこれも当初文章だけでやつたらどうかって話しだつたんですけど、これはやっぱりダメで、電話一本では「はいはい」いうだけでもなかなか返事が無いんですけど、やっぱりハガキ一枚よこすよりは相手の声を聞く方が効果があったような気がします。声を聞くよりは足を運んだ方が、相手もせつかく来ててくれたんだからやっぱり出ないかんてことで、まあ一そういう事の繰り返しだったように思います。

みんな手分けしまして、その地域の対象となる方の所に足を運んで、こんどこんな会をするんだが出てきてくれんかという事で足を運んだのが、ついこの間の事のように思い出します。

それではじめまして、もともと当時の神社庁、今から二十年くらい前ですけど役員さん出られました、出られた方が支部長会で名刺を交換するような状態で「いやいやはじめまして」とて事で、そういう状態ではまずいんじやないかと、やっぱり若いうちから知り合いになつておけば、府の運営からはじまつていろん

長曾我部　十亀

あればかなり細かい調査でし

な意志の疎通ができるからやろうじゃないか。まあ一こんな事もひとつ契機ではあつたわけです。それからいまだに続いているますが、あの禊の研修なんかでも、運転手さんで……(笑い) 帰つたら朝から始めましてですね、これなんかでやってましてね。あの、正式にここにござりますように、四十七年の八月二十日七日とちゃんと案内状の名簿などもありまして、

とにかく、和田さんに一生懸命やっていただいたというのが一番最初だと、それから会員の集め方についてもこれも当初文章だけでやつたらどうかって話しだつたんですけど、これはやっぱりダメで、電話一本では「はいはい」いうだけでもなかなか返事が無いんですけど、やっぱり出ないかんてことで、まあ一そういう事の繰り返しだったように思います。

みんな手分けしまして、その地域の対象となる方の所に足を運んで、こんどこんな会をするんだが出てきてくれんかという事で足を運んだのが、ついこの間の事のように思い出します。

それではじめまして、もともと当時の神社庁、今から二十年くらい前ですけど役員さん出られました、出られた方が支部長会で名刺を交換するような状態で「いやいやはじめまして」とて事で、

清家　会報の一一番最初の創刊号の時にはみんな集まつばかりで、会報作りもようせんかったんですが、たまたま広島かねていつて神道の講論をしあうまでなかなか時間がかかりましたけど、まあ一そこのうこうしているうちにだんだん顔も知つてくるゆうふうな事でなんできただけで、当初はそんなことはございませんでした。

それからあれは、十亀さんが会長の時でしたかね、神職の調査したのは。

それではじめまして、もともと当時の神社庁、今から二十年くらい前ですけど役員さん出られました、出られた方が支部長会で名刺を交換するような状態で「いやいやはじめまして」とて事で、

あの方が会報を担当してもろて創刊号をやつてもろたのは記憶に残っています。その後広島へ帰られたかな。会報の方はつづりが残っていると思うのでそちらの方も参考にしてもらえば、各年度の会長さんの活動状況なんかがわかると思いま

す。それから年令を長曾我部会長の時に四十五歳から四十歳に切り換えたんですが、それで会員数の減少と活動が沈滞化するような事が一時期ありまして、私ら

十亀　あの当時困ったのは、この時祭りが統一され、松山祭りがそれまでばらばらにやっていたのが統合されましたで、これで神職の割り振りでいうか今まで割り振りしてやつたのができなくなつた。という事で、何とかして欲しいと、いう事になりましてそれを祭典上の奉仕の事を受けようと。それをやるのはよかったです。

当時から始めてですね、これなんかも当初からあの神社庁長さんにはお頼みしてもらつたんですが、本来これは青年会が主催してやるというよりも府がですね、研修として主催してやつて欲しいと、暫定的なものとしてさしあたって青年会としてやりますからって事で出発したんですけど、「二十年たつてもいまだにそういう状況が続いておると、愛媛県で禊する場合には青年会のばかりしか、一般の神主さんの参加は少ないですけど、高知県なんかに行きますと、私どもが行つとうがつたんですが、ある宮司さんから叱られまして、そういう事をやるからますます统一化される。本来は統一してはいかん、それぞの祭りの特色を出さないから、だから助け合う事できないかな、それから、当時にさっそく会報の発行で、これが最初は愛媛県神道青年会といふん大勢で禊した記憶もあります。四国四県のブロック研修の場合なんかでも愛媛県内でもそういう状況だったようです。

から、ゆわんや徳島や高知の方と神主同士ですね、お互い顔知らん人はばかりで、それでもせつかく来てくれたんだからやっぱりハガキ一枚よこすよりは相手の声を聞く方が効果があったような気がします。声を聞くよりは足を運んだ方が、相手もせつかく来てくれたんだからやっぱり出ないかんてことで、まあ一そういう事の繰り返しだったように思います。

みんな手分けしまして、その地域の対象となる方の所に足を運んで、こんどこんな会をするんだが出てきてくれんかという事で足を運んだのが、ついこの間の事のように思い出します。

それではじめまして、もともと当時の神社庁、今から二十年くらい前ですけど役員さん出られました、出られた方が支部長会で名刺を交換するような状態で「いやいやはじめまして」とて事で、

## えひめ

んときから結局四十歳になりますて、四十過ぎれば自然退会されるという事で、半分ぐらいになつたかな。

長曾我部 あれは、全国の全神協の方がだいたい九割方が四十歳にしてまして、うちだけまあ一、四国四県で現在でも高松が四十五歳にしてますけど、四十五歳というのはほとんどないわけとして、どこで区切りをつけないかんという事で現状会員が百名、百二十名くらいましたが、こういう大勢いるときにとかんと、少なくなつたらますますできんだらうということで、四十歳にかえたわけなんです。

いま大体全国四十歳でしょうね。そんな事がありました。それから中央との関係ですけど、中央との関係は当時は、えー和田会長が二期なさって、十亜会長が一期なさつてその次私が二期させていたいたんですが、そん時に中央の方は、会長、副会長以下全部東京近辺の方じやないと、当時は飛行機いましても高かつたし、チョコチョコそう上京するわけにいきませんで、中央の方の役員さんは東京近辺の人がなさるのが通例だったんですね。それが、昭和五十年代に入つてこれではいかんではないかって事で地方からも役員さんを出そうという事で、ちょうどミナミドジョウ君が会長になつた年、松山で大会開いた年ですね、にそな話がありまして翌年からそつなつたわけですが、それまでは中央の役員は東京周辺新幹線で行き来できる範囲で、九州・四国・北海道あたりからは無理だという事だつたんですね。

それからあの当時、いわゆる中央の役員さんも、えーブロック選出の理事とそ

れから会長の指名理事と一本立てにしたんです。といいますのは、会長がいわゆるあてがい内閣ではできにくく、仕事するにしてもやりにくくて事で、半分は指名理事、あと半分は地区からの推薦された理事さんいうふうな体制にかわったわけです。ちょうどその当時五十六年くらいですか。その頃に傘を売りまして、金がなくて、何とかせにやならんといふ事でして、當時明治神宮の谷口権輔宜がたくさん傘を仕入れておりまして、本庁にいら本庁がさばいてくれんで、ストックがだいぶあります。それを一本二千円くらいで全神協からいただいて売つたわけです。あれでいつとき二百万円づくら金が入つてきてました。何か事業するのに金がないついで、そんな事したのを記憶しております。

清家 私が会長になった時には、今までの和田会長、十亜会長、長曾我部会長と十二年たつたりましてある程度の軌道にのつた段階でございまして、ちょうど会長引き受けた時に地区理事もちらりと見えていたので、会長もしながら中央の方も出ていかんといけん、それからまた、中央の会長が岩清水の田中さんやつたもんですから、あの方は行動されたので、四國四県で今まで全国大会に出た事がなかつたので、四県でソフトボールばかりやつたんですけど、軟式野球で選抜のチームを作りまして香川県まで行きまして、当時のよしみ会長さんにお世話をなつたんですけど、各県から十名づくらいう事で、十ブロックのうち三分の二以上出席したのを憶えています。岩手の方まで行つた事もありました。そういうふうに、全国の雰囲気が即県の単位に反映できるような下地を長曾我部さんによつてもらつてましたので、割合充実した二年間だったと思います。

観月神楽の夕べを椿神社で、第一回に私は会長の時にははじめさせていただきました。それから各東、中、南予と統いているわけですが、あれから十年たちますか、まあ一あれもよかったです。それから、私の車の上に看板はまだ残っていますけど、青年会に作つてもらいましてずっととその運動やっておりまして、先般そろそろやつと向こうの大統領が来て、かえしてもらえるかなあー、やつと日の目が見れるかなあーと思いましたけど、やっぱりソビエトはあるい状態ですでの、その時にある自民党の偉い先生が絶対帰つてこんやろうと、アメリカは沖縄返してくれたと、でも、言い続け事が大切な事だという事を云われたのをまだ耳に残つていますが、そういう運動もやりましたし、でちょうど玉串料の公判の事件もありましたんで、青年会がいつも傍聴券を取りに行つたり、中予の方にはこ迷惑かけたんですけど、そういうことと、私が一番印象に残つているのが神賛協が三十五周年のふし目やつたのでその役員もしよりましたんで、何とか四国四県で今まで全国大会に出た事がなかつたので、四県でソフトボールばかりやつたんですけど、軟式野球で選抜のチームを作りまして香川県まで行きまして、当時のよしみ会長さんにお世話をなつたんですけど、各県から十名づくらいう事で、十ブロックのうち三分の二以上出席したのを憶えています。岩手の方まで行つた事もありました。そういうふうに、全国の雰囲気が即県の単位に反映できるような下地を長曾我部さんによつてもらつてましたので、割合充実した二年間だったと思います。

矢野 様が会長の時には、先ほど清家君が云われたと思うんですが、ほとんど中央とのパイプなんかは十亜さんや和田さんとも、えーブロック選出の理事とそな活動をという事で今も続いております。それと私が地区理事とした時に、徳島のモンヤさんが指名理事やつたので、えー合同で何でもやろうという事で北海道の中央研修会にも札幌の方に行きました、そのついでにサイパンに慰靈祭に行こうという事になりました、各大会では国内の研修旅行しておつたわけですけれど、四国でまとまって行くっていうのもいいんじゃないかという事で、愛媛県はまだ耳に残つていますが、そういう運行で出でて、今でも準優勝のメダルだけは持つとるんではないかと思いますが(笑)い、そういう思い出がございます。

それと私が地区理事とした時に、徳島のモンヤさんが指名理事やつたので、えー合同で何でもやろうという事で北海道の中央研修会にも札幌の方に行きました、そのついでにサイパンに慰靈祭に行こうという事になりました、各大会では国内の研修旅行しておつたわけですけれど、四国でまとまって行くっていうのもいいんじゃないかという事で、愛媛県はまだ耳に残つていますが、そういう運行で出でて、今でも準優勝のメダルだけは持つとるんではないかと思いますが(笑)い、そういう思い出がございます。

それと私が地区理事とした時に、徳島のモンヤさんが指名理事やつたので、えー合同で何でもやろうという事で北海道の中央研修会にも札幌の方に行きました、そのついでにサイパンに慰靈祭に行こうという事になりました、各大会では国内の研修旅行しておつたわけですけれど、四国でまとまって行くっていうのもいいんじゃないかという事で、愛媛県はまだ耳に残つていますが、そういう運行で出でて、今でも準優勝のメダルだけは持つとるんではないかと思いますが(笑)い、そういう思い出がございます。

それと私が地区理事とした時に、徳島のモンヤさんが指名理事やつたので、えー合同で何でもやろうという事で北海道の中央研修会にも札幌の方に行きました、そのついでにサイパンに慰靈祭に行こうという事になりました、各大会では国内の研修旅行しておつたわけですけれど、四国でまとまって行くっていうのもいいんじゃないかという事で、愛媛県はまだ耳に残つていますが、そういう運行で出でて、今でも準優勝のメダルだけは持つとるんではないかと思いますが(笑)い、そういう思い出がございます。

## えひめ

んのあとついていくと、県内の基礎は作ってくれましたし、中央の事は長曾我部さんが基礎を作つて、その後滑家君が全国理事に出てましたんで、そこでまた完全な地固めをしていただいておりましたんで、目立った事業つていうのは県内、四国四県しか大きな事業は憶えてません。ただ、僕の時に十五周年をプリンスホテルでやつたっていう記憶があります。その時に大きな失敗談があるんですねが、会長と向こうの会長とのコンタクトがスマートにいつてなくて、会長が来られなかった。それで今の会長の小林君が東京でおるんだからという事で、こちらへ飛んで来つていう苦い思い出がありますけど(鈴木さんだつたかな、小林君だと思ったな)。何かそういう失敗もありました。ただ僕の時に一番悩んでたつて事は会員数の事でした。四十をきったもんですから、大体僕たちが卒業したその後、会員がものすごく減少するんですねいかつていう不安がありまして、年代をあげようかつて話もチラホラ出てきた事は事実です。

清家 今会員の事なんですが、和田さん、長曾我部さんまではだいたい百二十人くらいおつて、百名くらいの会費は入つとつたと思うんですけど、で私になって四十歳になりましたら六十七名だつたです。会員数が定年をひきました、ほれから卒業されてもOB会いうんで金をもらおうかって事も云よつたんですけど、まあ一出られた方までいう事ではそれはやめたんですけど、それでもやっぱり会費の徴収いうたら三分の二くらい、三十五〜四十人くらいの会費の収入やつたと思うますけど、あとは増える事は、今は若い

矢野 僕の時には五十名切つてましたね。五十名切つてどうするかという話で人数の問題が定期制を上げようか、四十歳にしようか、四十三歳にしようかという話もチラホラ出てたんですけど、その後そのまま池内君に持ち越しいう形でそのままいつてしまつたんで。

池内 私が会長引きついだのが六十二年の三月ですかね。三月から平成元年の三月、ちょうど陛下がご病気になられまして、そして、県民館で神賀協の病氣平憲のご願頼したり、そして亡くなられてから今の会長に引きついだ。陛下の昭和天皇の本を作ろうということを、日本を守る会の中で発足しまして、そういう事業とあとは神樂の方が観月神樂の方がお宮だけに限っていたんで、南海放送の方と提携いたしまして「サンパーク」で観月神樂の夕べというのをはじめまして、一般の方に神樂を見ていただくという事、それからあと、矢野さんが六十年から六年十一年だったでの、私がちょうど事務局してましてちょうど六十年頃から、今やっていますテレビの初詣は氏神様からついていうテレビの放映がたしか六十年か六十一からだつたと思います。矢野さんの時、清家さんの時でしたかね、看板のあれは十五周年で作つたんですね。矢野さん時ですね、矢野さんの時に矢野さんの近くに知つてゐる人がいるんでいう事で、十五周年事業といたしまして、手水の作法をしましてその後で、二礼二拍手一拜の看板を、あれ私の

十五回 ちょっと前に戻りますが、四十八年に四国大会やつたんですけど、四十九年にやつぱり全神協と二十五周年の大会を伊勢でやってますので、伊勢神宮会館で愛媛県からも五名か七名くらい参加いたしまして、この時「櫛敏郎」さんが講演されて、その時に神社院長の宇治土公真幹三重県神社院長さんが神賀協発足に非常に熱意を持ってやられた話があります。

青年神職は一つおもいきつてやれと、その後のしまつはわれわれがやるからどんなんやれという事で、それから熊さんが日本の心つていう演題で講演いただいて、この時は何とかみなさんに聞いてもらいたい講演だったなと記憶しております。その話を聞いた事によってまたこう力が入つて来たようなそんな気がいたしました。で、私それも和田会長の時に基本的なことは全部できつたわけです。当時早くも研修旅行の実施をいたしましたて、で一番思い出しますのは、津和野の

時だったんですかね。で、案外員は減らず一と池内君くらいまではそのままで行つたんじゃないかと思います。

矢野 時には運営資金の方は何とか赤字を出さずにやつていける状態になつたわけであります。えーそれからちょうど我々の次の代が二十年、昭和二十年代生まれの人がだいたい戦後の一時期時代の人がどうなんどんぬけでますので、えーまた次の代がですねもう一段と会員が減つて行くんではないかと思ひますけど、私の時は陛下が亡くなられた大きな事がありました事と、サンパークをはじめた。それからくらいいの活動でした。

長曾我部 再発足という言葉を使う事に対して、当初再発足するために和田さんがあく話をしてたんですけど、現在形だけでもあるんならばこのまま継承しようと心は最初の発足の時と変わらなくあるんだという事を忘れないように、いう事だけはね。

青年会は解体してしまって、昭和三十七年当時はまだあつたんですね。それがちょうど十年たつて会がなくなつてしまつておつたんですね、そんな関係でどこにお頼みしていくべきのかわからな  
いと。府長さん、三島府長さんだったですかね。行つた時に、やむえんから再発足しようがないじゃないかと話になつた

## えひめ

んですけど、あとあとおやじあたりに話を聞くと、戦後いち早く神道青年会できとったんだと、それぞれの県では継承してやっているという話はあつたんですけど、まあいろいろな状況はあつたんですけど、再発足という言葉を使う事になつたわけです。

(久保) 和田会長さんの時に、昭和四十九年十月に伊勢神宮式年遷宮があつたようで、会長さんが奉仕されたと……。それから教化、事業、広報、調査の各委員会の分割をされたと……。

矢野 そうですね、六十年に広報のほうに観月神楽の事業のほうの表彰をうけています。

(久保) んと、矢野会長さんの時に神青協第三十七回定期総会に於いて優秀会報賞をもらわされて、それから神々とまつりという小雑誌の発行。

十亀 私の時一番ですね。全国大会をうけた。これは五十三年なんですが、これは四国では初めてうけるという事でいろいろな問題点がありまして、よその四国四県でもよその県はともタッヂはできないぞと。それでは愛媛県でうけようじやないかと、何とかやってみようという事でこれも大変な事業でした。約二百五十名くらいの参加をいただいて、それを受け入れるって事は当時大変な事だつたんですが、これをやりきる事ができたという事も大変大きな自信になりました。それと、一つ困りましたのは、発会をいたしまして資金の問題をどうする

か。話はあつちこつ飛びますが、これが一番ネックだったわけです。その時に初詣ボスターを各神社に配布して寄付金をいたたこうと。この事で神社の方と少しやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかという事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

よって啓蒙してゆくというそういう行動がありました。これは宮崎府長の当時の熱井というか、当時の神社界にこんなやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかといふ事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

わゆる社頭で講演をする、そういう事に沿って啓蒙してゆくというそういう行動がありました。これは宮崎府長の当時の熱井というか、当時の神社界にこんなやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかといふ事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

よって啓蒙してゆくというそういう行動がありました。これは宮崎府長の当時の熱井というか、当時の神社界にこんなやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかといふ事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

よって啓蒙してゆくというそういう行動がありました。これは宮崎府長の当時の熱井というか、当時の神社界にこんなやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかといふ事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

よって啓蒙してゆくというそういう行動がありました。これは宮崎府長の当時の熱井というか、当時の神社界にこんなやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかといふ事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

よって啓蒙してゆくというそういう行動がありました。これは宮崎府長の当時の熱井というか、当時の神社界にこんなやりあつたのですが、これで神社の方からクレームがつきました。そういう事で各神社から寄付金を取る事はあらんと、それじゃあ我々の活動資金はどうするかといふ事になります。いやーそれはかまわなくてとにかく初詣ボスターによる事によって各神社の活性を行う事によって、みなさま方が神道青年会を応援していただく、これはもう絶対やらないと資金のあてになる所はないというふうな事で、それをやつたわけですね。

非常にみなさんご理解いただいたんでですが、神社とは常にあまり大きくて言えない事で、それともう一点、あのシブカラキヨウイチ先生、当時教学部長でしたが、県内の神職さん全員に呼びかけまして、この時に講演をいただいた。その時の内容は、「一社の教義を持て」全体の教義の問題つていうのは非常に神社神道界ではタブーくらいむずかしい問題です。敬神生活の綱領の中にその事はあらわれているんですが、そこまでしかとけない、それ以上は一社の教義を作りなさい。これがシブカラキ先生のお話。非常に私も各神社の宮司さんがたもお話を非常に心に受け止めさせていたいと、これも大変すばらしい事業であったといふうに思います。もう一点は、これはいつの時代だったのか、山口県の護國神社の訴訟、これについても私たち行きました。しかも、いやおうなしに認めざるをえない状況。しかし、それまでのいろんな糾余曲折があつてでしゃぱりすぎる

## えひめ

れでもできる事をしようという事でうちの場合は、昭和四十七・四十八年に発足した時、献血をしようという事でいち早く始めまして、これもその気さえあればだれでもできる。血液は最近よくさわがれていますけど、不足しているわけですね、そんなんをやろうと、それからもう一つは、その二つだったかな。その二つを柱にして氏子青年会を発足させたわけです。それから青年会を四十八年、当時再発足するにあたりまして、私はおやじからよく云われてたんですが、戦後神道学者でマツナガ先生という方がいらっしゃいまして、その方がG.H.Qの神道指令がでて、一番最初におっしゃられた事は、終戦から二十年、三十年たてばいわゆる神主は榮えるけれども、神道は滅んでしまうんじゃないかって事を云われたそうで、おやじからよくこの事は聞いておったんですが、その方は最終的には自然に帰るという事で富士のすその中にあります。自然林の中にあって亡くなつたんですが、今都会の神社あたりをみてみると、都会の神社はご承知のように経済的には非常に潤ってきております。

特に都市部の神社は安定しておりますので、中にはベンツに乗っているような神主もいる状況になつておるわけです。果たしてそれでいいのか、今私共青年会の先輩として、私自身も反省する材料として考えなければいけないんです。やっぱり一番根本みたいなのがなんか等閑(なおざり)になつて神主が豊かになる事と神道が栄える事つていうのは別問題だと思います。そこいらを少し考へないかんのではと最近特に思うわけです。まあいいわゆる安定、みなさま方と

同年輩になりますが、久方に佐藤君といふ神主が来て一生懸命やつておりますが、彼はもともと愛媛県の人間ではないんですけども、國のいしづえというこなでされども、國のいしづえといふのは宗教法人ではございませんが、修養団ですけども、そこでいわゆる神主を使命感を持つて、そして、その中から日本国民性というか、もっとも日本人らしい生き方をするには神主になるべきだ。彼は神主をめざして亞細亞大学におつたのですが、そこから国学院に来まして、それから松先生のかばんを持ちをしながら神道の勉強を、各地を転々としながら愛媛県に落ち着いたという男です。彼の生き様など見ていますと、我々いわゆる神主として累代の神家を継承している人も多いし、うちの御田村君みたいに自らこの道に飛び込んで来た人もおりますが、そういう人たちの姿勢を見習わなくてはいかんのではないか、まあうちの職員ですからそういう事いうのもあれですが、なかなか逆に私達がまったく違つた社会にいて、この社会に飛び込んで来られるかどうか、そういう事も考えてみると必要があるんじゃないか、そんな気がしました。

矢野 僕の時は基礎を築いていただけで、人数が少なくなつましたが、清家君の時もそうだったんですけど、まあ一あの会に来てくれるようになつたのですが、そういう顔見知りにならうといふのが僕の時、清家君から引き継いで大きな事業もなかつたんですけど、そういう内状をいたしました、美川のみそぎの研修会があつたんです。それに行つた時に和氣神社の宮司さんとか柳原、今の副会長さんとか真鍋さんとかおられましたて、おまえ帰つて来たんやけん青年会入らないかんのぞ、それからたんび案内状出しけん來いよという事で、そのみそぎの研修会を行つたのが一番最初で、それ

からしばらくして聞いたら、役員会したけど三入しか集まらんだけん解散したんですけども、そこでいわゆる神主を使命感を持つて、そして、その中から日本国民性というか、もっとも日本人らしい生き方をするには神主になるべきだ。彼は神主をめざして亞細亞大学におつたのですが、そこから國學院に来まして、それから松先生のかばんを持ちをしながら神道の勉強を、各地を転々としながら愛媛県に落ち着いたという男です。彼の生き様など見ていますと、我々いわゆる神主として累代の神家を継承している人も多いし、うちの御田村君みたいに自らこの道に飛び込んで来た人もおりますが、そういう人たちの姿勢を見習わなくてはいかんのではないか、まあうちの職員ですからそういう事いうのもあれですが、なかなか逆に私達がまったく違つた社会にいて、この社会に飛び込んで来られるかどうか、そういう事も考えてみると必要があるんじゃないか、そんな気がしました。

清家 私、大学卒業してすぐ帰つてきたんですけど、帰つて来た時には前の青年会がございまして、帰つて来た途端に案内状をいたしました、美川のみそぎの研修会があつたんです。それに行つた時に和氣神社の宮司さんとか柳原、今の副会長さんとか真鍋さんとかおられましたて、おまえ帰つて来たんやけん青年会入らないかんのぞ、それからたんび案内状出しけん來いよという事で、そのみそぎの研修会を行つたのが一番最初で、それ

からしばらくして聞いたら、役員会したけど三入しか集まらんだけん解散したんですけども、そこでいわゆる神主を使命感を持つて、そして、その中から日本国民性というか、もっとも日本人らしい生き方をするには神主になるべきだ。彼は神主をめざして亞細亞大学におつたのですが、そこから國學院に来まして、それから松先生のかばんを持ちをしながら神道の勉強を、各地を転々としながら愛媛県に落ち着いたという男です。彼の生き様など見ていますと、我々いわゆる神主として累代の神家を継承している人も多いし、うちの御田村君みたいに自らこの道に飛び込んで来た人もおりますが、そういう人たちの姿勢を見習わなくてはいかんのではないか、まあうちの職員ですからそういう事いうのもあれですが、なかなか逆に私達がまったく違つた社会にいて、この社会に飛び込んで来られるかどうか、そういう事も考えてみると必要があるんじゃないか、そんな気がしました。

矢野 僕の時は基礎を築いていただけで、人数が少なくなつましたが、清家君の時もそうだったんですけど、まあ一あの会に来てくれるようになつたのですが、そういう顔見知りにならうといふのが僕の時、清家君から引き継いで大きな事業もなかつたんですけど、そういう内状をいたしました、美川のみそぎの研修会があつたんです。それに行つた時に和氣神社の宮司さんとか柳原、今の副会長さんとか真鍋さんとかおられましたて、おまえ帰つて来たんやけん青年会入らないかんのぞ、それからたんび案内状出しけん來いよという事で、そのみそぎの研修会を行つたのが一番最初で、それ

からしばらくして聞いたら、役員会したけど三入しか集まらんだけん解散したんですけども、そこでいわゆる神主を使命感を持つて、そして、その中から日本国民性というか、もっとも日本人らしい生き方をするには神主になるべきだ。彼は神主をめざして亞細亞大学におつたのですが、そこから國學院に来まして、それから松先生のかばんを持ちをしながら神道の勉強を、各地を転々としながら愛媛県に落ち着いたという男です。彼の生き様など見ていますと、我々いわゆる神主として累代の神家を継承している人も多いし、うちの御田村君みたいに自らこの道に飛び込んで来た人もおりますが、そういう人たちの姿勢を見習わなくてはいかんのではないか、まあうちの職員ですからそういう事いうのもあれですが、なかなか逆に私達がまったく違つた社会にいて、この社会に飛び込んで来られるかどうか、そういう事も考えてみると必要があるんじゃないか、そんな気がしました。

清家 私、大学卒業してすぐ帰つてきたんですけど、帰つて来た時には前の青年会がございまして、帰つて来た途端に案内状をいたしました、美川のみそぎの研修会があつたんです。それに行つた時に和氣神社の宮司さんとか柳原、今の副会長さんとか真鍋さんとかおられましたて、おまえ帰つて来たんやけん青年会入らないかんのぞ、それからたんび案内状出しけん來いよという事で、そのみそぎの研修会を行つたのが一番最初で、それ

## えひめ

ん生活している自分のお社の事とか、それから、幸い私の時には、前の会長をはじめ副会長みなさん方、だいたいお互い雅楽の関係なんかもずっと前からやつてましたので、お互いが気心を知つてましたのでお互いまあ気のおけない連中ばかりだったのですごく楽な事は楽たつたであります。ただ私の根本的には、初代つていつもいけないといつたんですか、和田会長がですね、よく私等が大学出てこちらに帰つて来て、よく会の時にこられてましていろいろ活動なさって、自分が役場の職員であるにもかかわらずこちらまで出てきて、矢野さんが運転手をして、あのいろいろそういうエビソードもあるんですけど、和田さんが亡くなられた時にここに居る方々も葬儀に行つたんですけど、その時にすごい山奥なんですね。別子山村ですから、だからその時、和田さんは遠い所から来ているつていうイメージ

柳原 だいたいみなさま方に青年会の活動目的といいますかお話をいただいたわけですが、目を外に転じまして内部の問題なんですが、昭和二十三年ですか、二十五年か神社庁ができたのは、当時の組織そのままの状態で愛媛県は現在三十支部あります。全国で三十支部以上あるのは三県しかありません。兵庫県と愛媛県と愛媛県だったと思いますが、そんだけ支部をたくさん作つてどうするかっていう問題もあるんですが、そういう問題よりも社界の現状、また要望する事、そういう事がございましたらこの機会にですね、会報にものる事ですからざくばらんにお話いたいだらと思ひます。

前会長、前々会長からどんどん云つていただいています。結局一番問題は庁自体が情報不足なんですよ。この情報化時代でやっぱりこちらあたりが理屈じゃない気持の問題の一番大切なところじゃないかと思うんですけど。

我々の時にも、実は専任神職どここにも書いてますけど、兼任神職っていう問題がすごく問題だったわけです。つまり会をするのは日曜日じゃなきゃならないと。で、今日曜日は兼任も専任も忙しいから平日になると参加者が少なくなってしまう。で、兼任神職していても、和田さんのようにやはり個人個人の意識のしかたという結論しか出ないと思うんですね。だから今日ははじめてお会いする方もいらっしゃるんですけど、やっぱしそういう気持ちっていうのは何のため、なかなかそういう事は結論出ませんのね。そういう気持ちっていうのが神道青年会がこれまでこうふうにやってこれた原動力じゃないかと思いますけど。

今唯、本府から来た、まあ一県内は県内でやってるんでしょうけどね、もっと情報を作かした活動っていうのをやればいいんじゃないかと考えています。

長曾我部 まあ一私も同じような意見なんですけども、いわゆる神社庁の組織そのものは、昭和二十三年ですか、二十五年か神社庁ができたのは、当時の組織そのままの状態で愛媛県は現在三十支部あります。全國で三十支部以上あるのは三県しかありません。兵庫県と愛媛県と愛媛県だったと思いますが、そんだけ支部をたくさん作つてどうするかっていう問題もありますが、そういう問題よりも社界の現状、また要望する事、そういう事がございましたらこの機会にですね、会報にものる事ですからざくばらんにお話いたいだらと思ひます。

池内 今、神社庁に対する、これをして欲しい、あれをして欲しいというのは、池内さんに対する、これをして欲しいといふことです。要するに、機関っていうものが機能していないですね。そしたら、機能するためにはどうしたらいいか、やっぱり組織全体を時代にあつた形に直すべきところは、大いに直していくかんと思います。そのためにはどうしたらいいか、やつぱり議員としても出ていらっしゃいます。私もこの前からこういう事で出ていますが、やっぱり神社庁に何かしてもらおう、あれしてくれ、これしてくれて事じやまなくて、我々がいなきゃ愛媛県神社庁、舞が舞えないんだって事になつて、こちらの方からあなた方来てくれなきゃこまろぞっていう状況にしなきゃいかん気がします。何かしてもららんじゃなく、こちらからしてあげようというぐらいい気持ちでやっていかなきゃならんのではなかかなーと、そんな気がしとるんですけど。それから、云つてみたつてなるべく事はなつてゆくんでけど、何としてもできないものはできないという事で、そのままの状態長く続いてきておりま

ります。これは今、池内さんの方から話がありましたが、当初、和田さんの会長の時から色々な要望書から文章にして送ったりしたけれども、梨のつぶての場合もあれば、何かの時にちょこっと教えていたくだかもございましたけれども、そういう状態が続いておりますので、我々がかしながらきやならないのです。神社庁がしてくれるんじゃないんです。という気持つております。それと同時に支部からよく伺いますと、支部長さんから支部員に對して、車も無ければ電話もなかった時代の支部がそのまま存続していると、お話をいたいだらと思ひます。

## えひめ

もう一つ、具体的にはですね、たとえば高知県の場合なんかですと、高知全県で七支部になっておる。だから役員さんから理事さんへですね、神道青年会の会長が必ず出てくる。情報収集のためもあるでしようし、若い人の意見を聞くと言ふ事もあるでしょう。そういう点ではやっぱり他県の様子も聞いていただきたいと思うのですが、現状ではそこまでいたっておりませんけれども、やっぱり愛媛県の下の支部を単位にして、支部長さんが評議委員会など出でておりますので、それが意志決定機関になっていますけど、そういう状況がいいのかどうか、本来ならば今のよこわりの行政にならなければいけないのが、たてになってるんですね。

年度別にならべてみると、組織といふものは若い人と壮年の人と老年の人の比率っていうのは、三対四対三くらいの比率で構成されている組織っていうのが一番イキイキしていると思います。それが青年はゼロ、中年我々が出すと一番若いと、五十過ぎてやっと若いもんが上がってきたというふうな状態の中で、なかなか組織は活性化していかないと、こんなふうに思っています。また、これも誰かがしてくれるんじゃないとかなくして、我々で一つそういう事をですね、ひながたに考えると、あの今やつてらっしゃる事はこの辺がいかんというふうな事があれば、我々がそういう立場になった時にはそういうふうにしようという考え方やつたらしいんじゃないかと思います。

十亀 今のお話の中ですね、やっぱり後継者の問題ですね。愛媛県を見ますと池内 今は新聞・雑誌などが神道的な事をどんどんたたいてゆく時代ですが、そ

後継者が育つか育たないか、これが非常にこれから問題になろうと思いますね。で、私も一番心配しますのは、先輩のみさん、神職のみなさんは自信を持つて後継者を作ろうとする意欲があるかないかという事が、この神社界を大きく左右してゆく大きな問題になる気がする事と、まず神主は一番の氏神さまの信仰者にならないかんと、その信念を持たないとお宮の運営はむずかしい。この話があります。まさしくその通りだと思いますし、氏子、氏神を受け持つんですね、その氏神の御神徳というものを氏子のすみずみまで伝えていかにやならん、その努力をどうしてゆくか、今あの先ほどの専任と兼任の問題があります。専任の方々はとにかくなんなんですが、兼職でやつておられる方々は、本当に氏子のすみずみまでそのね、そつした意志が通じているだろか。一番心配しているのがこの行政分離の中でですね、結局神社の祭が行政の祭りにとつてがわっているんではないか。たとえば西条祭りはすばらしい、町を擎げてやりますけどね。果たしてこれは神社の祭りなのか、いわゆる市政、政治がやつとる部分、そこらあたりが何か遊離していくような感じがするわけですね。このあたりを神主の責任なんか、非常に考えさせられる問題だなあっていう気がするわけです。祭りごと中心という事をしつかり神主が把握して、そういう思いをきつと伝えてみなさんとスクランブル組んで、そういうしたものきちつとやっていかないと将来先端を残す。

じるなーという思いがしておりますね。それと、もう一点はやっぱりどんな宗教でも全国という対局あるいは日本といふものは日本神道によって国体の根幹が作られておる。これはよその世界の国ででもですね。それぞれ国の土壤によって宗教っていうのは育っておりますけどね、キリスト教にしても仏教にしても、あるいはイスラム教にしましてもその所の状況に応じてこうしなかつたら民族は生き残れなかつたら民族は生き残れなかつてゆけないということがある。日本の国は何かというと、すばらしい自然に恵まれた中のそういう神々が多神教を日本の神道を生まれたと。このことが日本の国というものを形成している骨格をなしているというところに、私は大事なもつと心せなならん問題だと思います。それを今までそのね、そつした意志が通じていなかったら、自分とこだけでこうかたよるんじゃなくて、やっぱり八百万の神々がそもそも誇りにしながらこれをやっていかにやならないふうな思いがするわけです。だから、自分とこだけでこうかたよるんじゃなくて、やっぱり八百万の神々がそれを影響しあってお伊勢さんの天照大神を中心とします。そういう所にこう天照大神も絶対ではないわけですからね。すべての各氏神の神々がお互いが助けあってはじめて日本の國を形成していくというおもいうちゅうのをね。だからその津々浦々の氏神様の存在というものがどれ程大事かっていうことをいう思いを何とかこうまあーそんな思いがしておられますね。

これは朝日・毎日特にそうなんですが、結局日本の根底をくるわすために、結局神社神道っていうのが責めやすいのか。そういうもののをなくするために、子供たちが見るマンガの本なんか見てみますと神様の姿って云つたらもう翼が生えて、頭の上に輪っかがある。そういう状態で現状が。で日本の神様っていうのはよくほどさがさなきや出てこない、そういうふうな学校の教育からして完全に神道というものを除外しようとしてきて、実際しているわけです。ですから、先生によつては違いますけど、遠足に来たつてお宮に頭下げるわけでもない。だからそういう子供たちは結局家庭で親が教えなければならない状態なのに、それが今親が教えてないわけですね。で、それを持つて各お社のご奉仕のあり方をまあ一これ理想のようですが、やっぱし我々も誇りにしながらこれをやっていかにやならないふうな思いがするわけです。だから、自分とこだけでこうかたよるんじゃなくて、やっぱし氏子とのつながりです。社会司が個人的な氏子とのつながりです。それが教えてないわけですね。で、それをどうするかっていうと、あとは一社一社司が個人的な氏子とのつながりです。それが教えてないわけですね。で、それをされるんだから、結局神社界でもそのまみんなが、あそこはいい、ここはいいと、ただ平面的な事を見るんじゃなくて、自分の自分のお社を守るために、氏子一人一人をつながりを持って、こう神社の事を説明するなり、個人の祈祷っていうことで、ただ平面向的な事を見るんじゃなくて、その津々浦々の氏神様の存在というものが、結局みんなのお社が栄えるという事が、神社神道が栄えるという事ですかね、そういう団体的なものが今自治会などで問題になってきてますし、個人をつながりを持って、こう神社の事を説明するなり、個人の祈祷っていう事がですね、やっぱし氏子を把握する必要があります。結局みんなのお社が栄えるという事は、神社神道が栄えるという事ですかね、そういうものを見てみますと、神社神道だけ栄えてみんなのお宮がさびれるって事は無いわけですから。結局宮司個人個人の考え方、やり方によつて神社が栄えてゆくって事は神道が栄えますね。

## え ひ め

てゆくって事ですから。要は宮司の考え方じやないですが、しないお社は結局あとも後継ぎもいなくなるし、結局淘汰されでどかの宮司がきて代替になってしまふような、神社によりまして氏子の編成などいろいろ時代的な、山の上の方なんかは氏子さんが何軒しかいないとか、そういう特別な例もありますけど、要は宮司個人の意志というか、神社をとにかく自分が守つていかないかんという一番の意志が最終的には、神社神道が盛んになる。だから……。

長曾我部 池内君が云つておられるのと私もだいたい同じなんですね。このあいだ南子の方もいらっしゃいますが、和靈さんで教化委員会がございましたでしょ、あの時に話がでましたのに、後継者の問題、それからいろいろあって神主の経済的問題なんかも出ました。そん時に総代さんもだいぶ来ておりましてね、たまたま今度、私教化委員長やれという事でやらしていただきとんですが、何か意見が無いかつて事で頭出したんですが、そん中で私一番思いましたのは、お金の事なんか色々出たんですけど、果たして氏子の方がこの神主さん、どうしてもおらんといけんという必要性を感じているかどうか。神主の側もですね、それを氏子の要請に答えてくるかどうかという問題が出てくるんですね。ですから、どこぞの神社に神主さん今までおつたけれども、今はいません、兼務で来ていらっしゃいます。兼務で来て充分できております、という答えなんです。充分にできてるっていうのは何ができるかっていうと、ようするに春、秋のお祭り、祭典はできりますと、祭典できると地元

の人はそれで終わってるというふうな考え方ですね。神主の方もその程度の答えしかよう出してない。だから、どちらに問題があるいうじゃなくて、両方に問題があるんですけれど。神主の側もやっぱり宮司さんおつてもらわな、宮司さんだれかじゃなくて、この宮司さんにおつてもらわなっていうふうになつてない、だれでもいいんです。だからこの人がだめならこの人でええわいとこういう事になつてしまふ。それも来ようがないとなるととりあえず來てもらうたらそれでええがなという状態ですね。神主もそれに答えるでないから当然そうなつてくるんで、これはあの地域の人々はやっぱりこの宮司さんにおつていただいて日々おつとめていたで、また、月の一日と十五日には、月次祭行ったらそういう教化の話もしてくれると、神道講話もしてくれるとやっぱりあの話聞きに行つてみたいという事がでつてしまふ中で、神道の教化つていうのができるんじやないかとおもいます。それから総代さんの方にもその事申し上げたんですけど、神主さんがおらんおらんいうんじやなくて、要請しても来てくれんと、来てくれって云つても、あなたの息子さん、今おっしゃっている条件で神主にしますかっていうたら、それはちょっと(笑い)、そういうふうな中ですから、そういうふうな状態に今なつてあるんです。これは南子だけの問題じゃなくて日本全国全部同じだと思います。そういう状態の中で地域社会つてものが崩壊してしまつてですね、もともと神主つていうのは地域の人たちとの関係で成り立つておる。お寺さんなんかは檀家、家のつながりですね。新しい宗教つてい

うのはほとんど個人とのつながり、さっき池内君が話していたようにやっぱり基本的には、今の憲法がいいとか悪いとか別問題にしてね、やっぱり個人を対象にしたそういうものも合わせて地域の信仰も大事ですが、並行してですね、深めていかんとこれから経済的につまり、法人としての運営がなつていかんと、特に私申しあげましたのは、神主さん、宮司さんは、朝夕おつとめしとるけん、あとはそれでできとるがという人多いんですけど、やっぱり法人の代表役員でもあるわけです。運営に対する一番の責任者でもあるんですけど、ほとんどの人がまあ兼務をしとるというと舌葉が悪いんですけど、おつとめしてるとどうしてもそういう事になつてしまふんですけど、うちの会計は総代さんにまかしておりますが、しっかりとやってくれると、神道講話もしてくれるとやつぱりあの話聞きに行つてみたいなーというふうな中で、神道の教化つていうのができるんじやないかとおもいます。それから総代さんの方にもその事申し上げたんですけど、神主さんがおらんおらんいうんじやなくて、要請しても来てくれんと、来てくれって云つても、あなたの息子さん、今おっしゃっている条件で神主にしますかっていうたら、それはちょっと(笑い)、そういうふうな中ですから、そういうふうな状態に今なつてあるんです。これは南子だけの問題じゃなくて日本全国全部同じだと思います。四十歳以下だとガタッと減つてるのは当然の義務じゃないんです。そんな事を平氣でしている。それから、たまたま関係法規の事が少し出たんですけど、今の法律の中でしなきゃいけない事がぜんぜんできてない。もつとひどいのは、戦後無償で國から貸与された境内地の手続きがまだできていない所がある。日本中一杯あります。まだ國の土地のままになっている所がようあるんです。それも神社本庁から庁を通じて再三、再四督促しているのに返事されない。そういう状況の所がたくさんある。

これは自然淘汰の原則でそういう所はおのずとすたれてしまします。挺子いれしようがない。顔がこっち向いてないんまあ一最終的には、その任にあたつている宮司さんの努力のしかたで変わってからそういう所はもうやもえません。これからそういう所はもうやもえません。これが自然淘汰の原則でそういう所はおのずとすたれてしまします。挺子いれしようがない。顔がこっち向いてないんまあ一最終的には、その任にあたつている宮司さんの努力のしかたで変わってからそういう所はもうやもえません。カンフル剤・特効薬なんかない

## え ひ め

と思います。また、普遍的なものも、これを行なうと絶対にええといふものも無いと思します。その地域、地域によってやらなければならぬような事があると思います。まあ、そんなふうな事です。

柳原 このあたりで役員の方何かで質問があれば。

御田村 あの、今の青年神職に感じる事、ジレンマでもいいです、希望でもいいですし、そういう事を、きたんのないご意見をおひとりおひとりお願ひしたいんです、が、よろしいでしょうか。

十亀 やっぱり基本になりますのはね、私がなんか五十の坂越えましたんでね。何が大事かっていうとやっぱり二十代にやった事はね、その時代にやった事が基礎になつてですね、あと本当に大事な基本になつてことです。その時代に頑張つた事はね、その時代にやった年に迎えた時に、それが果たす事ができない。これが、だからみなさん方もできる限り研修

なるってことです。その時代に頑張つた事もいいとやはり責任を持つた年代になつてですね、あと本当に大事な基本になつてですね、あと本当に大事な基本になつてですね。何が大事かっていうとやっぱり二十代にやつた事はね、その時代にやつた年に迎えた時に、それが果たす事ができない。これが、だからみんなさん方もできる限り研修して、ちょっとと神社界はあの一建で前が非常に多い。飲むぞとかね(笑い)、飲む事もいいんですが、やはり気分いい嚴肅な本当に命がけのお祭りをして、愉快に直会ができるという事ですね。やっぱりこのどちら方をやらないといけないんじゃないか。このためには基本的な事を勉強する機会をいかに持つかという事ですね。何さま、案外高い所を望みすぎます。基礎になる部分が非常に欠落しておる、まあ、これはみなさんだけじゃなく、私、今考えてみましてね、そうだなと思う事もありまして、危機感をみたなと思う事もあります。基础感をみております。終戦後、マッカーサー

ところを聞いて、そのへんのところの情報を持ちながら自分たちはどういかないかんかというものをつかんでいかれたら、勉強する……、うちの宮司にもよく云われます。私も本を読みませんので、うちの宮司はね本当にもう、月に三冊から五冊の本をね。だから、とにかく神主は勉強が足らないなって事を云われますが、是非。

長曾我部 今、十亀先輩がおっしゃった通りで、私自身もそうなんですが、もう一つやっぱりほかの神主さんに比べて神道青年会という、青年じやないときつい事つて何かあるんじやないかと思います。それはみょうにその常識みたいなものができてしまつた我々では、神社界に於ける常識をですね、それが世間といふにズレていようが、そういう事に気がつかなくなつてしまつて。それから、私共がやつとった当時にはそれが世間の任にあたつていて、元長さん以下、次々に引張り出しましてね、講演依頼したりです、そういう事ようつてしまつた。で、中にはおいでてくれなかつた人がいたりしましたが、やっぱそういう事でたまに神社界に石投げるようなのも、やっぱ波紋を起こして欲しいんですよ。どうしたらいいのか、我々ひとりではとてもできません。もちろん組織がないとできません。もっと大きな問題であります。しかし、そのことに対してやっぱり疑問を持っていたみたいんですよ。やっぱり、あの今一番いろんな問題意識を持つという事は、いろんな事考えているから問題意識がでてくるんだろうと思います。問題意識を持ってないって事はないはずで、何か皆問題に思つたりした事ある苦ですから、それをやつぱりぶつけて欲しいと思います。それをぶつけられてへたつてしまうでは、こっちの方が悪いわけですから、もちろん、元の方も我々もその事に対して勉強していく

なければならないんですが、同じような疑問も持つておるわけですから、実際にそれで立場になるとなかなか面と向かって云えない事もありますが、いわゆる私の時は公文書にですね、府に送りつけたりした事もよくありました。もっとも返答はなかなかくれませんけど(笑)。でもやっぱりそういう事を若い連中が考えるとなるんだなって事を思つていただけでいいと思うんですが、あれら何もしとらんからほつとつたらえが、補助金出してやつたらえがといわれたら、これはもう青年会が存在している値打ちは半減してしまうわけですから、やっぱり斯界の先兵としてですね。何か疑問を持ついただきたいと思います。

いっぱいあるはずです。山ほどあるはずです。それをひとつひとつ見つけていたいたらと思います。あの、ムチャクチャな事でも結構だと思います。たとえば、ここでこんな事云つていいのかどうかわかりませんが、昭和天皇さまの御靈をおまつりする昭和神宮はどうするんだと、そういう事を神社庁では考へてよいのか、本庁では考へてないのかと云う事をですね。みなさんそれぞれそういう事思つてらっしゃると思うんです。どうしたらいいのか、我々ひとりではとてもできません。もちろん組織がないとできません。もっと大きな問題であります。けれども。しかし、そのことに対してやっぱり疑問を持っていたみたいんですよ。すべきだと、なぜすべきかいうふうな事を討議していただきたいと思います。

清家 今、おふた方が云われましたように、今の神社界そろそろ世代交代の時代になつております。終戦後、マッカーサー

指令が出て、現在のご苦労された宮司さんが御高齢になりまして青年のOB連中がそろそろ宮司の職につくというような世代交代の時期になりました。私は青年会で学んだ事が理事の方に公文書も出されました。それもありましたし、理事者との懇談会を開きましたけれども、そこに出でてから問題意識がでてくるんだろうと思います。問題意識を持つてないって事は云々が来たか、またかわいがっちゃうかいうような青年会にしていただいたらと思いつます。

矢野 今も、私も勉強不足なので青年会に望むということで、みなさんに云いつくしていただいたので、やはり極端に云えば愛媛県の神社界を我々がしようて立つというような氣概を持って、そして、問題意識を提示してどんどんそれにつき進んでいただきたいっていうのが、一番

の若さを持って何でもぶつかっていくと、飲みにケーションもいいでしょうし、みんなでワイワイするのもいいでしょうけど、そこに何か一つ疑問点なり、何かを持ってそれに対する我々がよって立つんだという気概と熱意を持つてこれから活動していってもらいたいというのが僕の思いです。

池内 今、諸先輩がずっとお話をしていたので、私が神社界に入った時からずっと考えてみると、今考えてみると結構楽しかったなあーというイメージがすごく強いわけなんですけど、で、その樂しかったのは何かなあーというと、やっぱりいろんな人から勉強させていただいたっていうのが一番の結論だと思います。で、いろんな会がありまして、神官以外の人と話しているうちに、あーこういう考え方、様々な意見、あのお社におりましても状況が違います。氏子数も違います。

十亀 ふうにやっているからっていって、結局それがやっぱり勉強できるという神官

十亀 ちょっと私、みなさんにおたずねしたいのは、この天皇陛下の事なんですね。天皇の存在をどのように認識をされおるかという事を非常にこう自分が今日来た中で日本の国がなぜ天皇を必要とするか、ここらあたりの問題をみなさんが、さあーしっかり認識される機会があつたかどうかいう事ですね、これはね、やっぱりアラーの根幹がありますのでね。

長曾我部 家にもたしかに中心がなければならない。

十亀 それは何で、國も中心がある。大嘗祭の問題ですね。ほんに大嘗祭におけるも

のが、唯天皇それだけの事ではない。いわゆる神習に習う、家であつてもそういう

で結局は、自分のためにこの会をずっと続けていってもらいたいと思います。

十亀 みんながそういう意志になりますと青

年会がもっと活発になって、今まで思つたなかつた活動もあるでしょうし、あ

のもういろいろ幅広い活動もできる

んじゃないかと思います。で、もっともとみんなで会つてワイワイいるんあのーと思ひ入れとか、こんな情報があるとか、こういう情報があるということをお互いが交差してですね、そして、ひとつこれから新しい活動を開発していくつてもらいたいと思います。

柳原 ありがとうございました。いちおう六時までという事であまり時間もないですけれども、最後にこれだけは云つておきたいという事、どなたかございましたらどなたからでも結構ですか、お詫びただいて最後にしたいと思います。よろしくお願ひします。

十亀 ちょっと私、みなさんにおたずねされたのは、神宮でお参りするまでのバスの中ですね。意識を伝達する大事な場面だなっという事を思つたわけですね。私は自身がですね、そのあたりをよその宗教団体は非常に上手ですね。話聞いてますと、天理教ですと行くまでに非常にこう、挙式のしかたを教えてそれを楽しくしながら、そこに行つた時には自然にお参りの作法ができるよう持つていてしまふんだっていふんですね。まあーそういう事ござりますと機会を止しくどうぞ、いかにその事を生かしていくかという事をぜひ、私の反省の中から旅というものを非常に大切にしていただいたという事です。

長曾我部 エーと、私の場合はたまたま教化委員長という事で、庁の教化の事にかかわりを持たしていだく事になつたんですけども、今の十亀権宮司さんのお話と同じで、教化つていうのは別に改めて氏子の人を集めて教化つていうものは、こういうもんだからこうする、ああする、あるいは、という事じやなくて、やっぱり日々の生活の中に教化つていうのがあるって事、この点いつも氏子つていう神様が見ていますので、この点を氣をつけいただきたいと思います。

清家 教化の事で実践した事でよかつた事をひとつ、八幡浜市には三十四社お社がございまして、宮司さんが七人ばかりおるんですが、兼務されるとこもありますし、一社でされるとこもありますけど、同じ市内におりながらよその神社へ、自分の兼務のところはお祭りに。ほ

## えひめ

かの宮司さんとのところのお社にお祭りする機会がなかったので、ちょうど大洲・喜多郡の方では旧正月ですか、七社参りをされるという事を聞きましたので、五、六年前から各宮司さんが各自このお社においていただいて、バスを二台、一台で旧正月なんですが、正月はみなさん忙しいので旧正月の二月の一日から三日ぐらいの間に一日だけ、一年に七社、五社にもよりますけれども、四社、五社参ってその宮司さんに正式参拝していただきて、講話をしていただき。その時はそこの地元の総代さんはそこのお社におつていただきて、甘酒なり、御神酒なり出していただくと。四、五年しましたらちょうど神社も終戦後、修理を迎えるような神社がたくさんありますので、改裝してきれいになつたるからあそこに行こう。その見ていたら事によって自分とこの総代さんがうちの神社はまだ足さんと一緒に協力して、三十四社のうち半分くらいがご大典の記念もございまして、えーまた若いもんが神樂を復活という事でそういう事もござりますし、やっぱり氏子との日頃のつき合いと申しますか、年に一ぺんでも一緒に、先ほど十亀さんが云われた旅でもよろしいですし、一日の中でおそのお社を見学する事によって自分のお社のためになると、これが非うちがやつてためになると思いまして、青年会の方も自分とこの神社だけじゃなくて、よその神社を見るという事が自分の神社にかかわってくる事で、まあ一神道の教化の一端として、

是非ご参考にしていただき、やつていただけたらと思います。まあ一年に一度の研修旅行はどうちらの宮司さんもやられておると思いますけど、えーまず、大元のお伊勢さんにお参りに行くと、毎年は無理でも四年に一回は必ずお伊勢さんのコースを取るというふうなコースを取つておいたらと思います。私達の南予地区の場合はわりあい九州が近いもんですから、すぐ九州、九州っていう事で、九州にも有名な神社がたくさんありますので、南へ行つたり、北へ行つたりしますけど、四年に一度はお伊勢さんのコースを。今度はご遷宮の平成五年に。新しくなった私達の淨財を奉納した新しいお社へまたお参りに行こうという話をしておりますので、そういう事も参考にしていただきたいと思います。以上です。

矢野 教化の話がずっと出てきますけど、まあ一番、根本的に私個人の考え方になりますが、今年は申しわけないで対象に動いてないです。今、子供たちという事で私立幼稚園と誕生会とかそういうふうな事を毎月やって、二ヶ所ほどもつておりますが、子供たちに太鼓の音とか、その誕生日の子供たちを前に出してお参りをして、玉串をひとりひとりに、形はバラバラですけどあげて二札一拍手一札という、非常に子供たちも楽しくやつてます。もうひとつ我々やっぱり若い世代を対象にしてゆく必要があるんじゃないかと考えております。自分の神社で幼稚園なり保育園してあると思いますし、また、他にも所もタップしていけば結構神社の事を、そ

して、毎月地域の昔話などを子供たちにしてゆくつて事はできるんですが、非常に研修旅行はどうちらの宮司さんもやられておると思いますけど、えーまず、大元のお伊勢さんにお参りに行くと、毎年は無理でも四年に一回は必ずお伊勢さんのコースを取るというふうなコースを取つておいたらと思います。私達の南予地区の場合はわりあい九州が近いもんですから、すぐ九州、九州っていう事で、九州にも有名な神社がたくさんありますので、南へ行つたり、北へ行つたりしますけど、四年に一度はお伊勢さんのコースを。今度はご遷宮の平成五年に。新しくなった私達の淨財を奉納した新しいお社へまたお参りに行こうという話をしておりますので、そういう事も参考にしていただきたいと思います。

池内 そういうえば、神道青年会で研修旅行で、是非、大嘗宮には行きましたけど、まあ一昔の時はバスに乗つて伊勢、伊勢じゃない出雲の方に行つたり、九州の方に行つたりしましたんでね。また、あいう古社巡りを神青の方で計画して、和気あいあいとやつていただき、その旅行の件で、実は私のところも兼務社で砥鹿神社っていうところがございました。本当にどうもありがとうございました。

柳原 あつという間に二時間が過ぎてしましました。本当にどうもありがとうございました。それから伊勢には全然砥鹿神社っていうのが無いんで、まあ一今度お参りしようという事で、まず伊勢にお参りして、そして一泊してお参りして帰つたんですけど、まあ一その一部落の者も今まで自分のところの氏神がどういう社格であったとかですね、えー話してたんですけど、

